

広報

# あしや

937号

令和元年 (2019)

9月1日



芦屋町にプロレスラーが  
やってきた!

ヨー



九州ば元気にするバイ!  
山鹿小学校学童クラブ96人とプロレスラー阿蘇山

# 寄添者ですが何か!?

よそもん  
寄添者とは、「人」に「町」に「心」に寄り添いたい者という意味です。

芦屋町地域おこし協力隊卒業後の寄添者コーナー。今年度は、芦屋町に魅せられ引き寄せられた皆さんに、寄添者視点からの魅力などをうかがっていきます。

▷問い合わせ 広報情報係  
(☎223局3569)

## 芦屋海浜公園にチャレンジショップがオープン

芦屋町を代表する夏の施設といえば、レジャープールアクアシア。そこに隣接するチャレンジショップに新しい店が7月20日にオープンしました。その名も「APRICOT CAFE」。代表の境朋子さん（花美坂）に話を伺ってみました。

境さんは、子育てに最適な場所を求めて家を探し、芦屋町にたどり着いた寄添者です。2年前まで看護師として働きながら、2人の子どもを育てました。子育て中に、大阪の友だちのところに遊びに行った際、すてきなカフェがたくさんあるのを見て、「いつか、芦屋で飲食店などができたらいいね」と夫と夢を語っていたそうです。



境 朋子さん  
アプリコットカフェ代表



△長男の妻、梓さんと一緒に店を切り盛り



△アプリコットは孫の名前が由来です



△ブライダルグッズの注文もある人気の手づくり雑貨

## リフレッシュをするつもりで専業主婦に

専業主婦になった境さんは、時間を有効利用して、飲食店ができるようにと食品衛生の勉強などをはじめ、カフェ開業へ向けて準備をすすめていきました。また、もともと手先の器用な境さんは、以前から手づくりが大好きで、バッグや木工、ブリザードフラワーにアンティークとなんにでもチャレンジ。作品ができるたびに、創作意欲はさらに高まり、自宅でワンデイショップやワークショップを行い、作品に囲まれるカフェを目標にしてきました。

## 夢は手づくりのワークショップカフェ

主婦になって2年が経過した頃、カフェ開業のチャンスがやってきました。チャレンジショップ開業者募集を知り、「芦屋町ならではの海見えるカフェに、自分好みの飾りつけをして、皆さんに喜んでいただけるドリンクやスイーツでもてなしたい」と、また一步踏み出す決心をしました。「スタートしたばかりで不安もありますが、夫や嫁など皆が力を貸してくれるので心強い」と境さん。「課題は、冬の海辺をどのように展開していくのかということですが、ワークショップで手づくりの楽しさを皆さんに伝えるのが楽しみです」と話していました。

## 編集後記

▼東京オリンピックに向けて、各競技で代表決定のニュースが流れてきていますが、それ以上に気なるのがラグビーW杯。開幕まで1カ月を切り、日本代表の活躍を期待して胸が躍ります。4年前はイングランドで開催された。スポーツバーで観戦しながら徹夜で過ごしたことを思い出します。ルールの難しい競技だけに、観ている人が分かりやすいようにマイクを持って解説をすることも。また今回もどこかで熱くラグビーを語っているかもしれません。(鮎島)

▼今号の特集は茶道の表千家同門会の皆さんが来町され、芦屋釜を全国の皆さんに知ってもらおう出来事となった記事を掲載しています。芦屋釜復興の歩みがまた一つ実を結びよるこびを感じています。また、花美坂区に住んでいる女性が体験したちよつといい話を紹介します。たくさんのごみ出しをしていた時に、夏休み中の2人の小学生の女の子が「お手伝いします」と言って、ごみを一緒に運んでくれたそうです。大人に声をかけるには勇気が要ったのではないかと、その女性は大変感動したそうです。町が子育てに力を入れているのを垣間見れたように私もほっこりしています。(鍛守)

この広報は、再生紙を使用しています。